

山川地域の農業経営者

1. 新規就農者の取り扱いについて

問 新規就農の審査で農業に関わっている方でないので、違う品種の豆小僧を生産すると、その作物についてサポートが分からない。

豆小僧の特性を把握していないので、何でこんなに実がなるのかとか、なぜ早く収穫しないのかと指摘を受け、新規就農支援の審査で落とされている。

新規で農業参入するから補助が出るのに、補助を貰うために申請するが審査で落ちてしまうのはどうなのかと思います。

答 新規就農の判断材料が、全国一緒なのでまずはそこが間違いかなと思います。農家自体の土俵は、地域性も含めて違うので、そこはそこの地域の物差しとというのがあっても良いと思います。

経営判断の委員については、本当に失礼な言い方をする方もいたと思いますが、地域全体の中で、農業委員会でも農業でない方も入れなさいと言うのが、国の方向性なのでそういうところもあったと、しっかり伝えておきます。

問 福元地区は畑かん事業が入っていないので、水がないというのがあり作物

が育たないで困っている。

畑かん事業を取入れていただきたい。

答 全国的に畑かん事業の見直し時期に入っている。

福元地域が皆でまとまり、声を上げて行かないと畑かん事業は出来ないと思っています。畑かんの要件ですが、昔は8割の方向性が決まれば出来たが、今は同意が100%と取れないと事業採択は出来ませんが、農業委員会が畑かん事業を推進しています。

問 地区内に後継者が居ないとか、もう年だからといって離農している方々が多く見られる。その方々からトラクターがあるとか、農業用資材があるとか話を持ちかけられているので、新規就農者に譲渡できるような窓口を設けることは出来ないか。

答 旧山川町時代に農業機械バンクみたいな取り組みを考えたが出来なかった。

農政課かJAいぶすきが、情報を把握して振り分けることが出来たら良いと思います。

農業は燃油高騰とか資材高騰する中で、共同事業・農家の中で組織編成というのが出来ないか議会の中で提案し、前向きに検討するということの答弁はいただいているが、農政課の方にも提案し取り組みをお願いしていく。